

選者銘々感

小川 未明

【童話】童話では、自然にうたはれて、朗らかで、單純で、分り易いものをいふと思ひました。子供を題材にして、歌つたさいふよりは、むしろ、子供のうたふものにして、しかも清新にして、現實味の豊かなものを勝れてゐる如く感じたのであります。

【童話】童話に於ては、子供は、すでに夢の世界に住めるものにして、たゞへば、いかなる生物をも擬人化して考へることに少しの不思議はないけれど、そのうちにも、おのづから空想の自然にして、想像力の豊かな、美しいものを良いと思ひました。知識は、尊重さるべきものに相違ないが、特に童話にあつては、詩化されるさいふこそが何より肝腎であります。今回の作品は、前回のものに比して、著しく進化の跡が認められました。

岸 邊 福 雄

今回の應募数も可なり多数であつたので、選者にして、

非常に喜んだのであります。

【童話】童話は、作曲するものにして作詩せられた方、其點に注意の拂はれてゐない投稿のありました事は、募集の條件が不明瞭であつたかも知れませんが、作曲するものとして作詩なさる方が有利であるに感じた事でありました。

一人して、數篇も投稿せられた熱心振りには感謝の氣分を厚くしました。

私共は、投稿の氏名を示されてゐない爲に、男性か女性かを、筆跡で想像するに止つてゐましたが、矢張り男性の方が優れてゐたやうに感じました時は、何んだか半片位の寂しさを覺えました。

× 斯様な、募集が、繰り返されますと、終には、隠れた方の投稿があつたり、新進の詩人の力作を拜見する事も出来たり。尙一篇宛の批評に對しては、やがて作詩を試みんごする方達の指針ともなりませうほかに、更に回を重ねて、童話童話の募集を希望するご共に、好いのも拙いのも、記名でも匿名でも、何んでもいいから、投稿されませう事をお奨めいたします。

× 機會は、精進させますから。

【童話】 童話は、總じて序の段が長きに過ぎたのが、通弊でありました。それと共に、結びが弱いのも共通してゐました。

中には、同人達の依つてゐる雑誌に掲載して、得々たる氣分に見えるものがあります。

童話にも、一人して六七篇も投稿してゐる特志家がありました。筆跡で男性と察せられました。文章も整つてゐて面白かつたが、話す話よりも、讀む話に作られてゐるのが多かつた。女性らしい筆跡で、話す話として首肯出来る一篇があつた。總じて、讀む話は、文章を飾らなければならぬが、話す話は、美辭麗句を、多分に並べる事は、聊か遠慮しなければならぬ。

あまりに、裝飾した文章を入念に話してゐるを、事實が茫として、兒童には話の正體が捕へられなくなる。殊に、幼兒に於ては然りであります。

×

今一つは、近年、兒童の生活に即した話を話をし、現實の話の唱導されましたが、それは文士派の人達の聲で、幼兒教育者側には、それほど現實に即した童話を要求してはゐない。何故なれば、兒童は詩人である。詩の生活をし、藝の生活をしてゐる。幼兒の藝術の生活は、大人が唱導する現實生活に即したものののみ限られてゐない場合が多

い。

それだから、兩方を探るべきである。

今回の應募作には、寧ろ、詩的のものの方が多かつた。それと共に、著しく感じた事は、夢物語り風のもので、殆んど姿を消した事であつた。是は、僕としては非常に嬉しかつた。

此後は、序、説明、頂上、結びと四段構へで作つて戴きたいのであります。而して結びに力をウツシ入れてほしい。

葛原しげる

【童話】 幼兒に適する童話は、まづ重心豊かな面白さの溢れたる内容でなくてはなりません。次に、話の筋がハッキリしてゐなくてはなりません。そして、これは、書かれたる童話ではありませんが、幼兒は、讀んで貰ふか、話して貰ふかしくはなくて、分らないのですから、その記述には、かなり特別の注意が拂はれてゐなくてはなりません。

さうした態度で、豫選されたる二十四篇を、熱心に讀まして貰ひました。そして童論と同じく、夫々によい作風のもの、多い事を悦びました。就中、次の數篇は、私自ら、幼兒に、讀んで聞かせたく、話して聞かせたいと思つた佳作です。

『みみづく』幼兒の好奇心、おちつかぬみみづく、先生の

博物の説明の自然さ、殊に、みみづくの不安を同情させる話し方、そして最後に逃してやる事になる不自然の無さに敬服しました——唯鼻に傷をしてゐて痛さうな事を、少しく、具體的に説明して、實感を出させたいと思ひます。また、女學校の生花は、花屋の出來事である爲に出したのですがあまり効果がありません。

『三匹の子犬のお手紙』よく馴れた筆致です。無駄がないです。三匹を三等分に扱つて、しかも、各の記述に於て充分、引きつけて行くところ、巧妙さいふ他ありません。一體かうした三つの對比法による童話は、昔から、甚だ多い形式ですが、これは、第一第二が「悪」玉で、第三が「善玉」であるのに、始め虐待されたりして、後に榮えるさいふのでなくて、三つともみな、「めでたしく」なのです。しかし、第三だけは、自分で、自力で、安全境を求める事になつてゐますが、それは、稍々説明して明かにしないさ、見落されさうです。或は、作者はさうした功利的な考へ方として貰ひたくないのかとも考へますが、少くとも、結びは、枕詞の照應上、これでは不足です。

『健ちやん達』兵隊さん『前者』同じ作者のものらしいのですが、よく鍊れたタッチです。假作物語ともいふべきスケッチ風のもので、幼児の、好奇心さいふよりは、物見高い都會人の生活の渦巻の中にある、わけて兵隊さん

ら、ごんな男の兒でも好きなので、取材も、最も自然です。また、兵隊さんも、レフハインされてゐますし、少しも、わざ、さらしくなくて、而も、禮儀もあれば、正しさもある中に、恩愛も溢るゝばかりで、まことに結構です。實は、私は、三十年來、よい童話を作りたくて、もぢ／＼してゐるのですが、疑問が多くて、まだ一篇も、會心の作を得ませんので、當分、童話の筆は執らない事にして、ひささまのお作を拜見する時も、いつも、味つて／＼をります。そして世に著名になつてゐる作品を反誦しても、多くは、「大人」が、出過ぎてゐる事に、いよく疑問を深めてをります。一層のこま、かうした兒童の世界のスケッチが、最も好ましいものであるか、思つてをります時、本篇の如きは、最も、健康で、明朗で、しかも、愛もこもつてゐて誠に結構です。また、題も『健ちやん達』と複数にした周到さは、大に、注意されなくてはならぬ日本語の名詞の書き方の一つです。

『鼠さんのお引越』親二匹と子供三匹の、順々の記述が、聞く幼児の好奇心を満たすに充分であり、次々に、片付いて行く順序善さの快味は、けだし、大人や未経験者には、想像もつかない幼児の頭の正しさの反映です。童話の中には、聞いてゐて頭を悪くされさうな、秩序の無い、順序の悪い、筋の入り亂れたものもある時、本篇は、かな

り長くて、さうした不安がない上に、適當に話の山もあり、谷もあつて、かなり長くて大丈夫です。

「紅ちゃん朝顔」事變色の出でるる唯一の作品でした。朝顔の新芽をも大切に於てやる日本人や、その兒が、彼等排日黨の所謂「東洋鬼」でない事を説明し證明しようとした作です。たゞ、序のところで、今少しく、説明がしてないミ、このまゝでは、きく幼兒の不理解が後半を聞く氣持を、無くするであらうと案じます。「ホンちゃん」「バイちゃん」「チンちゃん」をきいて其の音は面白くても、目でみて色別の興味を感じる大人の、幾分でも、幼兒が感じ得るでせうかは問題です。

しかし、反覆してひたいたいのですが、一體に、よい作が集まりました。そして、創作が、これだけ生れて來た幼兒指導關係者各位の、ますます精進あつて、幼兒のミのみいはないのですが、特に、幼兒のものは、本當は、一番大事で、また、一番六かしいのですから、幼兒の唱歌は童謠と共に、幼兒の爲の童話は、所謂童謠詩人や、童話作家である文藝人へのみ委さないで、幼兒を日常手がけてゐる仲間からこそ、さうした童謠唱歌また童話の、いよく多く生れ出でんことを、幼兒の世界の爲に、熱望してやみません。否、着々、かうして、既に、幾多の佳作を得た事が悦ばしくてなりません。まことに私も勉強になりました。何で

も、早く童話創作のペンを取りたいものです。ミ自らを鞭ちつゝ。

【童話】 幼兒唱歌に要望するものは、いふまでもなく、まづ可愛らしさ、美しさですが、また活々としてゐるたく、眞理に觸れてゐるたく、又、同時に、見落され易い事の發見でもありたいです。しかしその表現は何さいつても、リズムカルでなくてはなりません。

かうした態度で此の度の選を進めましたところ、夫々に、よい狙ひでもあり、よい發見もあり、正しい表現のものが多くて甚だ愉快に存じました。殊に、多くが、幼稚園や托兒所また小學校の先生方の作品ださきいて、實に多年、

童話も、童謠も、子供の世界から、自ら生れる。

さいふ事を信じてゐる私さして、全く愉快の極みでありました。そこで、それ等の中で特に光つてをりました數篇について、短評を試みる事を求められましたが……

「汽車」は、用語に多少の不用意はあつても誰も知らない夜中でも、愉快に、ポツポツとさ走るこゝろお花を摘んでる子供が、その花を上げて手を振るさいふ光景を悦びます。

「春が來た」の題は、文部省唱歌のと同じでない事を望みますが、此の内容は申分なくやさしくて、温かで、嬉しいものです。唯、第三節第一句の後半が、「七語」であつて作曲に困るこゝろ、第二行の「お花」が、第一節の桃であるの

かそれとも他の花でもあるらしくて、印象不鮮明なのが、口をしいです。

「雪の雲」の元氣よさ。コドモは風の子でもありますが、それ以上に、雪の子でありました。雪が降り出すと、悦びますこころ、この作にも其の嬉しさが隠されてゐて、愉快です。但し、第一節の「来たく」は「出たく」の方がよろしく、それも、第二節に對して、「出たく」黒雲、雪の雲、第三節も「ふれく」で起すか、「くろく」眞黒、雪の雲などとしたら、よい曲が生れさうですね。

「お相撲」の元氣よさ。まことに結構ですが、各節の字脚が少しも考へられてゐませんから、すぐ作曲は出来さうもありませんが、少しの工夫で大丈夫、ものになりませう。

「日の丸の旗」は、白地に赤く、の文部省唱歌もあります。が、あれの抽象的なのに比して、そして、靜的なのに比して、この方が、されだけ、幼児向であるか分りません。私の舊作にも此の作と同じモチーフのものがあります、殊に「バンザイ〜」で結んだ手法の同じで、驚悦してをります。私は、此度の多くの中で、これを第一等に推します。

「春」はすつきりした作ですが、そしてほんきに春らしい作ですが、第一節の桃、第二節の「小さいお花」が、ぶつかつてをり、第三節のお日様を「お縁の上で」こしてある事が窮屈です。今一息のところが、をしくてなりません。

其他、今一息の洗練で、十分立派になるものゝ多い事を、惜しみもし、又、よい傾向の作者の作品の續出がこの社會に——多年、私の要望してゐるコドモの世界に——約束されてゐる事が分つて、嬉しくなりません。此の一回限で募集はなくても童謡創作の事は續けられますこころを、御祈り申します。

又、少しく餘事ながら、詩作は凡てさうですが、殊に幼児唱歌は、概念で作つてはなりません。「シャボン玉」の一篇に、シャボン玉に映つてゐるお家が廻り、木が廻り、坊やのお顔も廻る。こいふのがありましたが、そんな事さへなくば、實に巧妙な作でありましたのに。

最後に、又いひます。

幼児唱歌は、幼児關係者の世界からこそ、生れるのです。それが、本當なのです。手先で作つたり、大人の趣味を強ひてはなりません。だからこそ、本誌の愛讀者各姉のこの道へもの御精進を祈つてやみません。

倉 橋 惣 二

【童話】 私は童謡の方を先きに見ました。そのために、童話を讀みながらも、さうも節がつくやうな口調になつて自分で可笑しくなりました。それよりも、童謡の詩性を童話に求め度くなるやうな氣分が勝ちました。その爲でせう

か。今度の童話に、さうも詩性が少ないやうに思ひました。

詩性といつて、何も、美しいロマンチズムといふことに限る譯ではありません。現實話も大にいゝのです。事實話もいゝのです。觀察話も此頃いたされてゐる類のものも大にいゝのです。たゞしかし、それは幼児の世界に溶け込まないといけません。幼児の世界に溶け込んだものは即ち詩性の滲むものです。幼児童話である以上、かういふ注文は無理ぢやありませんまい。

その意味で、「鼠さんのお引越し」「逃げない小鳥」「良子ちゃんミチューリップ」「雀ミ奴風」「紅ちゃん朝顔」「兄弟熊」「蛙の子供」なごを、面白く讀みました。これらが、優賞の中にはいるかどうか。他の審査員諸先生の綜合點でまゐるのですが、一側面觀を言つて置くのも何かの御參考になりませう。少くも討論の種になりませう。中で、「鼠さんのお引越」を一番詩性があると思ひました。たゞ、昔から珍らしくない着想といふところに一寸割引がつかますが。

何しろ、皆さん御苦勞さまでした。がもつミ澤山の方が、もつミいろくゝのいゝお話を、お子さん達に、いつもいつも上げてゐらつしやるでせうに。なぜ、それを出して下さらないのですか。

【童話】 ……は佳作が澤山ありました。たゞ少し長過ぎたり、構造の上から、幼児に歌はせるに適しないと思は

れたりするのが多かつたのは残念でした。募集規定が徹底しなかつたのかも知れません。

そこで、幼児に歌はせ得るといふことを考へて選ぶと、たゞへば「ダルマサン」「ピアノのお道」「雪よ降れくゝ」なんか一番に抜き出されます。いづれも幼児の爲の歌らしいですね。「お洗濯」「子供のお相撲」「雪の雲」「てんとう蟲」「お窓の雨」「水首」「煙」なごつゞいて結構ですね。この他、まごごによく出来てゐると思ふのが澤山ありましたが、餘りうまく出来過ぎてゐて、幼児には？と思つたりもしました。

「お父さまのお手紙」「慰問袋」「るもんぶくろ」「るもんぶくろ」かういふ作品は、内容から敬意を表しました。いゝ時局童話は、ほんたうにほいほいものです。

かうは選をしましたが、實のところ、皆さんの、すぐれてゐるのに感心しましたよ。幼稚園にこんな童話詩人がゐることは、大いに意を強くすることですね。こんな事をいふと、葛原先生にニコ／＼ミニラレルかも知れませんが、幼稚園の先生こそ幼児の心になつて歌へるものです。幼児用童話は、ヘタはヘタなりに、(失禮々々)幼稚園の先生で作らうぢやありませんか。

サア／＼ ウタへ ドシ／＼ ウタへ

コドモ ヨ ウタへ コドモ ヨ ウタへ

ヨウチエンノウタチ

サア／＼ ツクレ ドシ／＼ ツクレ
ホボサン ガ ツクレ ホボサン ガ ツクレ
ヨウチエンノウタチ——
さうです。此の調子でね。

久留島 武彦

此の記念すべき童謡童話の選に當りて、繰返しても遺憾千萬にたへない事は、應募者の少き事、眞に子供を理解したる作家の無き事實である。

子供に聴かしむ可き話、子供の心に呼かける話として、其の作品をもこめて居るものに對して、與へられた大部分の作品は、必ずしも今回のみに限られた事ではないが、子供を觀察し、子供を材料として、大人が自分に聽かせて居るこいつた話の多い事だ。子供が自分材料の取扱ひ方に、實は自分の童心を満足せしめて居る話が大部分である。こいつても差支は無い。これでは子供には縁の無いものである、一向に何等の有難味も、嬉しさも感ぜられないのである。結局子供の求める話、子供の心に呼かける話では無いのである。

その點から云ふと、童謡の方は流石に子供の心の動き、彼等の環境に取材されたもの、多い事は嬉しい事だが、ただそれが眼にならぬ事だ、詩想の淨化をうけて居らぬ事だ。

文字の配列が、童謡の形式を踏んだだけで、歌心さいふものが、其の根本にちつとも踊つて居らぬ事だ。一寸した興味は感ぜられぬではないが、感興にまで盛上がる美しさが無い。

それに文字の使ひ方、言葉の選み方が出鱈目が多く、如何に童兒語の形式をかりたか説明されても、其の作家一人のみが合點し得る他は、これを讀み、これを使ふ他の者には一向に理解されぬ物の音色や、形の形容、摸聲を濫用されては、假令ばケーンを眼をさましたか、頬べがポタ／＼、さか／＼差向き子供にまつても其意味をささりかねるであらう。

尙最も多く眼立つは敬語の濫用暴用である。これは童話に最も多い、誠に困つた傾向で、一三の例を擧げるに、「チューリップさんのお花」、「もう／＼のお牛さん」、「野菊のお匂ひ」等さいふかと思ふと、お社さいふべきころに神社さぶつきらぼうにやつてのけ、幼稚園の女の先生が「ガラ／＼、さ笑つた」にいたつては、子供達も、定めてカラカラ大笑ひに笑ふであらう。其の心に呼かける問題も大事であるが、先づ耳に呼かける言葉の吟味だけでも、今少し眞面目に考へて貰ひたいものである。